

八丈島 水産だより

02月号
2020年



ビクトリーブーケ



第30回八丈島産業祭

今年^{ことし}は天気予報^{てんき よほう}など^いで言^いわれているように全国的^{ぜんこくてき だんとう}に暖冬^{はちじょうじま}であるように、八丈島^{れいねん}でも例年^{れいねん}に比べて気温^{きおん}が高^{たか}く、そして雨^{あめ}の日^ひが多^{おほ}いように感じ^{かん}ます。さて、1月25日^{がつ にち}から26日^{にち}には第30回^{だい}八丈島産業祭^{かい はちじょうじま さんぎょうさい}が開催^{かいさい}されました。雨^{あめ}が降^ふる中^{なか}の開催^{かいさい}となりましたが、商工業^{しょうこうぎょう}や農林水産業^{じょうせい ぶ}など各団体^{ことし}による様々^{さまさま}な展示^{てんじ}や試食^{しじく}、販売^{はんばい}などが行^{おこな}われ、多く^{おほ}の人^{ひと}でにぎわいました。漁協女性部^{ぎょきょう じょせい ぶ}は今年^{ことし}も出店^{しゅつてん}し、はんばご飯^{はん しょく はんばい}などの試食^{しじく}と販売^{はんばい}を行いました。

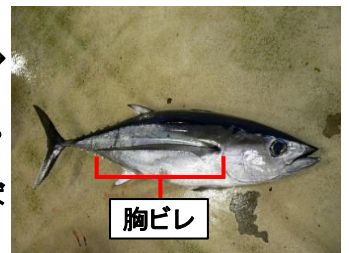
■ 最近の漁模様

冬場^{ふゆば}に入^{はい}ってからは海^{うみ}が荒^あれている日^ひが多^{おほ}く、出漁^{しゅつりょうび}日^{おほ}は多^{おほ}くありません。しかし漁業者^{ぎょぎょうしゃ}さんはその合間^{あいま}を縫^ぬって出漁^{しゅつりょう}しています。最近^{さいきん}はキンメダイ^{りょう ほか}漁^{なわ}の他^{ほかに}、ひき縄^{なわ}でマグロ類^{まぐろ}（キハダ^{きハダ}、ビンナガ^{びんナガ}）やカジキ類^{かじき}（マカジキ^{マカ}等^{とう}）を漁^{ぎよ}獲^{かく}する船^{ふね}が多^{おほ}いようです。また、出漁^{しゅつりょうび}日^{おほ}が少^{すく}ない時期^{じき}だからこそ、船^{ふね}のメンテナン^{おこな}スを行^{おこな}い、間^まもなく迎^{むか}えるカツオ^むのシーズン^むに向けて準備^{じゅんび}をする人^{ひと}もいます。



←キハダ(キハダマグロ)黄色味^{きせき}がかつたヒレ^{ひれ}と体色^{たいしき}が特徴^{とくちょう}。八丈島^{はちじょうじま}で最も多^{おほ}く水揚げ^{みづあげ}されているマグロ類^{まぐろ}。

ビンナガ(ピンチョウ)→マグロ、トンボ)非常^{ひじょう}に長い胸ビレ^{むねひれ}が特徴^{とくちょう}。この胸ビレ^{むねひれ}から、八丈島^{はちじょうじま}では「トンボ」と呼^よばれている。



胸ビレ

■ 流れ藻は海の生物のゆりかご



←漂流^{ひょうりゅう}している流れ藻^{なれそう}



↑流れ藻^{なれそう}に集^あまっていた幼魚^{おとこ} (カンパチ^{カンパチ}、イシガキダイ)

いくつかの種^{しゅるい}類^{かいろ}の海藻^{かいそう}は、大^{おほ}きく成長^{せいちよう}すると、波^{なみ}などで岩^{いわ}からちぎれて海面^{かいめん}を漂^{ただよ}うようになります。これを「流れ藻^{なれそう}」とい^いいます。流れ藻^{なれそう}には、カンパチ^{カンパチ}などいろい^ろろな魚^{いし}の稚魚^{ちぎよ}や幼魚^{おとこ}（魚^{いし}の赤^{あか}ちゃん）が住^すみ着^ついていたり、卵^{たまご}を産^うみつけたりし^します。卵^{たまご}や孵化^{ふか}したての弱^{よわ}い魚^{いし}は藻^もに身^みを隠^{かく}すこと^{こと}で、敵^{てき}から食^たべられず^ずに孵化^{ふか}、成長^{せいちよう}できるのです。稚魚^{ちぎよ}や幼魚^{おとこ}の生^いき残^{のこ}りは将来^{しょうらい}の漁獲^{ぎょかくりよう}量^{りやう}に深^{ふか}く関^{かか}わるため、流^{なが}れ藻^もは水産^{すいさん}上^{じょうじゅう}重要^{じせ}な自然^{しぜん}の仕組^{しく}みだとい^いえます。